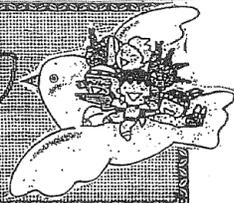


きたきたネットワーク

2022.11.28 No.74



<2050年には海洋中のプラスチックごみの量が魚の量よりも多くなる!!>

<海洋プラスチックごみの発生原因>

1. プラスチック製品の増加
プラスチックの生産は世界3位
2. ボイ捨てや不適切な処分(不法投棄)
3. 大雨や風などの天候により流される
4. リサイクルの不足
5. プラスチックの素材の特性(分解しない)
6. マイクロプラスチックの流出
一人当たりの容器包装プラスチックごみの発生は世界2位

<プラスチック製品の増加>

- 2020年度の国内の指定PETボトルの販売本数は233億本 一人年間200本
回収率は96.7%と高いが
- 本数では年間約7億本が回収されず
毎日190万本が回収されず環境に流出
- 清涼飲料の(日当たり)1人の消費量は483ml (2021年)
- 容器の77.2%はペットボトル
- 日本では年間1.3億本の傘を消費
そのうち8,000万本が2019年消費量は世界一



<マイクロプラスチックの流出>

- 一次マイクロプラスチック
もともと5mm以下に作られたプラスチック
● 衛生材料(紙おむつ、生理用品)、化粧品
- マイクロビーズ(スクラブ剤(研磨剤)等)
● 塗料 レジンペレット(中間材料)
● 洗濯洗剤、殺虫剤、柔軟剤、消臭剤、芳香剤
- マイクロカプセル
● 繊維(絹、合成繊維) - マイクロファイバー
● 肥料カプセル、タイヤ摩耗分
ビーズクッション、ビーズソファ
- 二次マイクロプラスチック
レジ袋やペットボトル等ももともと5mmより
大きいプラスチック製品が紫外線や波、
生物などの影響で5mm以下の破片となったもの

<プラスチックごみの問題点>

1. 生活、漁業や観光業への悪影響
● ごみ、臭気 → 景観を損ねる、土壌汚染
● 船の航行の妨げ、漁網に絡まる、誤飲 → 魚の減少
2. 野生動物への影響
● 誤飲・摂食 → 胃に蓄積し、満腹感により食べ物をとらず栄養失調で死亡
マイクロプラスチックに付着する添加物などを摂取
→ 添加物などによる影響(環境ホルモン)
3. 温暖化問題
● 石油の利用、プラスチックの消費によるCO₂排出
4. 格差・人権・貧困問題
● プラスチックごみ処理の労働者の処遇
5. 人体への影響(懸念)
マイクロプラスチック摂取(添加物・付着有害物質)

ACT NOW ってなに?

- それは、温室効果ガスの排出量正味ゼロの社会をつくるために、私たち個人による気候変動対策をグローバルに呼びかける国連のキャンペーンです。
- 暮らし続けられる気候を保つためには、温室効果ガスの排出量を2030年までに半減させ、2050年までに正味ゼロとしなければなりません。各国政府や企業などには、大胆で迅速、そして広範囲に及ぶ対策を取ることが求められています。しかし、低炭素社会に移行するには、市民の参加、とりわけ先進国に暮らす人々の参加が不可欠です。
- 誰もが気温上昇を止め、私たちの地球を守るためにできることがあります。環境に負荷を与えにくい選択をすることで、私たちは解決策の一部となり、変革を進めることができるのです。

CASA資料より抜粋

「1.5℃の約束」キャンペーン

いまずぐ動こう、気温上昇を止めるために。

1.5℃の約束



おうへ

福島ママカフェは
現在お休みしています。
再開までしばらくお待ち下さい。

